

受 番	験 号		氏 名	
--------	--------	--	--------	--

# 入 学 試 験

学力検査

(令和2年度 入学者選抜)

**2019.10**

学校法人 八紘学園  
北海道農業専門学校

北海道農業専門学校入学試験問題（計算）

試験時間は10分間です。

受験番号

氏名

$1+8=$

$\frac{3}{7} \times \frac{6}{7} =$

$2^3 \times 3^2 =$

$2.4 \div 0.6 =$

$37+6=$

$\frac{5}{8} - \frac{1}{2} =$

$12+12 \times 2 - 7 =$

$7.2 \div 0.8 =$

$42-7=$

$(-2)^3 \times 5 + 50 =$

$20 \times 45 =$

$9+1-4=$

$8 \div 4 =$

$\sqrt{49} =$

$256 \div 64 =$

$5\text{m} =$    $\text{cm}$

$54 \div 9 =$

$\frac{1}{3} \times 6 =$

$120 \times \frac{1}{2} =$

$2\text{dL} =$    $\text{mL}$

$5 \times 8 =$

$\frac{5}{6} - \frac{1}{2} + \frac{1}{3} =$

$321 - 126 =$

$1000\text{mg} =$    $\text{g}$

$24 \times 4 =$

$1:8=4:$

$8 - (-3) =$

$\sqrt{2} =$   (小数点第2位を四捨五入)

$2.7+7=$

$76+132=$

$(6+2+4) \div 3 =$

$4.8+4.5=$

$159-161=$

$(-3)^2 \times 4 + 4 =$

$\frac{3}{4} = \frac{\text{ }}{20}$

$3.5 \times 2 =$

$\frac{5}{14} \div \frac{5}{7} =$

$1.5+2.3=$

$156-62+18=$

$0.3 \times 0.2 =$

$1\text{km} =$    $\text{m}$

$0.04\text{km} =$    $\text{m}$

$100-11-17=$

$25 \times 1.5 =$

$3\text{kg} =$    $\text{g}$

$1\text{t} =$    $\text{kg}$

$(-3)^2 + 3 \times 2 =$

$6.3 \div 9 =$

$30\text{m} \times 25\text{m} =$

$\frac{5}{18} + \frac{1}{3} =$

$(-3)^2 \div 3 \times 2 =$

$30 \div 0.1 =$

(面積を求める。単位も記入すること)

 $200\text{m} =$    $\text{km}$

$\frac{1}{4} \times (-20) =$

$\frac{2}{3} - \frac{2}{15} + \frac{1}{5} =$

$-3+4+2=$

$15+82=$

$\frac{2}{9} \div \frac{4}{3} =$

$100 \times 0.01 =$

$(-9) \times (-2) =$

$12 \times 3 \div 6 =$

$72 \div 8 =$

$6 \times 13 =$

$18+3 \times 2 - 4 =$

$9 \times 14 =$

$42+8 =$

$\sqrt{4 \times 2^2} =$

$6 \times 2 \div 2 =$

$\frac{2 \times 9}{2} \div 1 =$

$(4 \times 4 + 4) \div 10 =$

$3 \times (-7) =$

$5 + (-8) - 1 =$

$(33 - 15 + 6) \div 3 =$

$3 \times 4 \times \frac{1}{3} =$

$5126 + 253 =$

$86 \div 2 =$

$500 \div 25 =$

$3 : \frac{1}{2} = 18 :$

$(-3)^3 =$

$0.5+7+3.3=$

$9 \div (-3) =$

$0.4 : 1.2 = 1 : \frac{\text{ }}{2}$

$4 \times 1.3 - 2^2 =$

$(-4)^2 \times (-2) + 21 =$

$250 \times 4 =$

$33 - 17 =$

$120 \div 6 \div 4 =$

$2 \times 55 =$

$\frac{1}{2} : \frac{1}{4} = 1 :$

$5x = 35, \quad x =$

$1\text{Lの水は,}$    $\text{g}$

$\frac{3}{5} + \frac{2}{15} =$

$6^2 =$

$2^4 =$

$3.5 \times 5 =$

$\frac{1}{4} + \frac{1}{3} =$

$-5x = 40, \quad x =$

$1+4 \times 3 =$

$28 - 0.4 =$

$23 \times 0 \times 3 =$

# 市田知子



明治大学農学部  
食料環境政策学教授

いちだ・ともこ 1960年、東京都生まれ。82年に東京大学文学部を卒業、85年、お茶の水女子大学人文科学研究科を修了し、農水省農業総合研究所現職林水産政策研究所を経て2006年から明治大学農学部勤務。11年から現職。生活改善普及事業やEUの農業などを研究。

## 現場からの 農村学教室

今年、国連「家族農業の10年」が開始した。5月、国連食糧農業機関(FAO)本部(イタリア・ローマ)で開かれた記念式典には世界83カ国から6000人以上の参加があったことである。  
FAO本部のローマを含む欧州連合(EU)では、農業は基本的に家族経営である。しかし、共通農業政策(CAP)の枠組みの中で、戦後、農業の近代化、規模拡大が行われてきた。  
ドイツの場合、①農家の離農による農地の流動化、借地による規模拡大が進んだ。1949年には110万戸以上を数えていた10世帯未満層は、70年までの間に半減し、98年には20万戸、2017年には10万戸に減少した。平均経営規模は16年時点をみると、  
また、経営の内実も変化している。ドイツの場合、16年の時点で家族労働力は44万9000人、家族外労働力は49万1000人であり、うち季節労働者は28万9000人を数える。家族労働力が減少の一途をたどるのに対し、家族外労働力は季節労働者を中心に増える傾向にある。

### 今週のテーマ ドイツ家族経営の持続性

法人形態別に見た旧東西地域間の経営数、規模の比較(2013年)

	経営数	割合(%)	経営面積(万ha)	割合(%)	平均経営規模(ha)
旧東ドイツ					
個人経営	1万7100	71.2	148.8	27	87
人的会社(注)	3300	13.6	281.6	22	373
法人	3700	15.2	281.1	51	768
小計	2万4000	100	551.5	100	229
旧西ドイツ					
個人経営	23万8200	91.6	939	84.1	39.4
人的会社(注)	2万400	7.8	166.1	14.9	81.6
法人	1600	0.6	10.92	1	68.9
小計	26万100	100	1116	100	42.9

資料: Ausgewählte Daten und Fakten der Agrarwirtschaft 2014, Seite 5 (注) 原語は Personengesellschaft。主として市民法上の会社(親子によるパートナーシップ経営など)である

# 女性の力が大きな支えに

Uや連邦政府と共に州政府が財政を「負担し、独自に行う点である。北部と南部、および旧西ドイツ・旧東ドイツ」とは地理的条件、農業構造が異なることか、政策の内容や重点が異なる。例えは、南部のバイエルン州政府は山間部の小規模農家のために「家族経営を放牧(アルプス産)に對する助成を行っている。

依然、個人経営が大半を占め、特に旧西ドイツ地域では割合を超える。だが近年、旧西ドイツ地域でも個人経営が減少し、代わってGBR(Gesellschaft für Bürger)の農業政策の⑥は、E

一方、北部のニーダーザクセン州はほとんどが平たんな低地であり、平均経営規模は72haとドイツ全体の平均を上回る。同州政府は、規模拡大や競争力強化を進め、農業経営の経済性を維持する一方、民宿、レストラン、カフェなどの経営多角化、アニマルウ

### ポイント

- ◆ CAPで規模拡大進む
- ◆ 経営維持へ多角化
- ◆ 農家以外の住民も参加

一方、北部のニーダーザクセン州はほとんどが平たんな低地であり、平均経営規模は72haとドイツ全体の平均を上回る。同州政府は、規模拡大や競争力強化を進め、農業経営の経済性を維持する一方、民宿、レストラン、カフェなどの経営多角化、アニマルウ

Uや連邦政府と共に州政府が財政を「負担し、独自に行う点である。北部と南部、および旧西ドイツ・旧東ドイツ」とは地理的条件、農業構造が異なることか、政策の内容や重点が異なる。例えは、南部のバイエルン州政府は山間部の小規模農家のために「家族経営を放牧(アルプス産)に對する助成を行っている。

の旧戸倉内で「お話しカフェ」という多世代交流の場を週に一回、設けるようになった。当時、連邦の社会省大臣だったウルスラ・フォンデアライエン氏の目に留まり、多世代交流のための活動がドイツ全土に広まった。

最後に、いずれの事例も農村女性(ワーマン)とそのネットワークが物心両面で支えとなっていたことがよく出てきた。農村女性(ワーマン)は、農村女性のネットワークを通じて、州単位にあり、連邦規模の組織もある。

氏名	
職名	
電話番号	
受番	

別紙1の、日本農業新聞（令和元年7月29日 現場からの農村学教室 148 テーマ：ドイツ家族経営の持続性）を読んで、次の質問に答えなさい。

問1 次の読みを漢字で書きなさい。

- ①れいさい（\_\_\_\_\_） ②けいたい（\_\_\_\_\_）  
③けいこう（\_\_\_\_\_） ④ぼき（\_\_\_\_\_）  
⑤こうじゅつ（\_\_\_\_\_） ⑥とくちょう（\_\_\_\_\_）  
⑦しょうかんり（\_\_\_\_\_） ⑧じぞくせい（\_\_\_\_\_）  
⑨かいちく（\_\_\_\_\_） ⑩すでに（\_\_\_\_\_）  
⑪だんぜつ（\_\_\_\_\_） ⑫きょくたん（\_\_\_\_\_）  
⑬しめいかん（\_\_\_\_\_） ⑭きゅうぞう（\_\_\_\_\_）  
⑮ひがい（\_\_\_\_\_）

問2 次の漢字の読みを書きなさい。

- ア：式典（\_\_\_\_\_） イ：政策（\_\_\_\_\_）  
ウ：義務（\_\_\_\_\_） エ：多角化（\_\_\_\_\_）  
オ：別個（\_\_\_\_\_） カ：負担（\_\_\_\_\_）  
キ：民宿（\_\_\_\_\_） ク：放牧（\_\_\_\_\_）  
ケ：維持（\_\_\_\_\_） コ：廃業（\_\_\_\_\_）  
サ：介護（\_\_\_\_\_） シ：癒やし（\_\_\_\_\_）  
ス：動機（\_\_\_\_\_） セ：解決（\_\_\_\_\_）  
ソ：背景（\_\_\_\_\_）

問3 傍線 a～d の部分について、下の問いに答えなさい。

(1) 傍線 a で説明している、ドイツの 2016 年の農業労働力に関する問いに答えなさい。

16 年の時点における総労働力は① \_\_\_\_\_ 人です。

その内「家族外労働力」は② \_\_\_\_\_ % (小数点第 1 位を四捨五入) で、「家族外労働力」

のうち「季節労働者」は③ \_\_\_\_\_ % (小数点第 1 位を四捨五入) である。

(2) 傍線 b で説明している「ドイツの農業政策」について、下の ( ) を埋めなさい。

農業政策にかかわる財政の負担は、④ \_\_\_\_\_ や⑤ \_\_\_\_\_ と⑥ \_\_\_\_\_ が負担

し、独自に⑦ \_\_\_\_\_ が政策を担うこと。

(3) 傍線 c の北部の一つ目にある事例農家が「大規模農業」を展開しているにもかかわらず、「カフェ」を開業している理由を記している部分を抜き書きしなさい。

⑧ \_\_\_\_\_ と

⑨ \_\_\_\_\_ ため

(4) 傍線 d の「農村女性クラブの活動の背景」は日本と同じと指摘しているが、その内容を記している部分を抜き書きしなさい。

⑩ \_\_\_\_\_

別紙 2 は、平成 30 年度「食料・農業・農村(通称「食料・農業・農村白書」)の動向から「第 1 章 第 1 節 食料自給率と食料自給率指標 (P82～86)」を転記したものです。これを見て、以下のそれぞれの問いに答えなさい。

問 4 図表 1-1-1 を見て、日本の食料自給率は昭和 50 年から平成 29 年の間に何%減少しましたか下の空欄に当てはまる数値を計算しなさい。

(1) 生産額ベース

昭和 50 年 ( \_\_\_\_\_ ) %—平成 29 年 ( \_\_\_\_\_ ) % = 減少 ( \_\_\_\_\_ ) %

(2) 供給熱量ベース

昭和 50 年 ( \_\_\_\_\_ ) %—平成 29 年 ( \_\_\_\_\_ ) % = 減少 ( \_\_\_\_\_ ) %

問5 図表1-1-2から、供給熱量ベースの総合食料自給率の低下が続いていますが、その主な要因について書かれている部分を抜き書きしなさい。

---

---

---

---

問6 図表1-1-3の「生産努力目標の達成状況(平成29(2017)年度)」について、下の問いについて書かれている部分を抜き書きしなさい。

(1) 食料自給率目標は、どんなものから計算されていると書かれていますか。

( \_\_\_\_\_ )

(2) 食料自給率を向上させるために「国内生産基盤の強化を図る」には、どのようなことを推進する必要があると書かれているか、その部分を抜き書きしなさい。

( \_\_\_\_\_ )

( \_\_\_\_\_ )

( \_\_\_\_\_ )

( \_\_\_\_\_ )

( \_\_\_\_\_ )

問7 図表1-1-5の「食料自給力指標(平成29(2017)年度)」について、下の問いに答えなさい。

①この試算を行うときに用いた農地は( \_\_\_\_\_ )、( \_\_\_\_\_ )は10万haとして計算しています。

②「米・小麦大豆を中心とした作付け」では、( \_\_\_\_\_ ) kcal/人・日です。

③「いも類を中心とした作付け」では、( \_\_\_\_\_ ) kcal/人・日となりました。

(以上です)